

「La Mère 母」／「Le Fils 息子」

作：フロリアン・ゼレール 演出：ラディスラス・ショラー 翻訳：齋藤敦子

La Mère / Le Fils

すべての父、母、子どもに向けた 二つの、そして一つに重なる家族の物語

若村麻由美、岡本圭人、岡本健一が演じる二つの家族。
フランスの俊英による傑作2作品、同時出演への思いを若村麻由美が語る。

2010年のパリ初演以来、各国で上演され、イザベル・ユペール主演でブロードウェイでも上演された『La Mère 母』。フランス演劇の最高峰モリエール賞の最優秀演劇作品賞に輝き、20年にフロリアン・ゼレール自身の監督により映画化(邦題「ファーザー」)され、アンソニー・ホプキンスがアカデミー賞(オスカー)主演男優賞、ゼレールが脚色賞を受賞した『Le Père 父』。そして18年にパリで初演されて高い評価を受け、22年にゼレール監督、ヒュー・ジャックマン主演で映画化された『Le Fils 息子』(邦題「The Son/息子」)。
フランス演劇界の俊英ゼレールの名を世界に知らしめたこの三部作、芸劇では19年に『Le Père 父』、21年に『Le Fils 息子』を上演。そして

今回は『Le Fils 息子』(再演)、『La Mère 母』(日本初演)を同時上演する。今回の公演で若村麻由美は、世界で初めて三部作すべてのアンヌを演じることになる。
『La Mère 母』と『Le Fils 息子』は別の家族の話ですが、父、母、息子の名前はピエール、アンヌ、ニコラで同じですし、家族構成にも重なる部分が多く、似たせりふも出てきます。だから今は、ちゃんと間違わずにできるか心配ですね(笑)。
そこにゼレールの意図を感じる、と若村は言う。
『La Mère 母』の台本には、役名ではなく父、母、息子の言葉としてせりふが書かれているのが特徴的です。私はそこにすべての父、母、息子という思いがあるのではないかと想像してい

ます。これは今、ご覧になっているあなたの話であり、どちらの作品にも普遍的な家族の問題が描かれているということなのではないかと。たとえば『Le Fils 息子』では、岡本健一さん演じるピエールは父として登場します。でも物語が進むにつれ、ピエールもかつて息子だったころのエピソードがアンヌによって語られる。そういう部分では、誰もが否応なしに家族の中で役割を演じているのかもしれないと感じます。『Le Fils 息子』のアンヌはヘトヘトに疲弊した状態で登場しますが、それは彼女が母であり、息子のニコラを喪失するかもしれない瀬戸際にいるからなんです

一方、『La Mère 母』でのアンヌは、家庭から子どもが巣立って空虚感を覚えている女性。
「子離れはとても難しいことだと思います。子どもが巣立つ喪失感と孤独感は、すべての母たちは多かれ少なかれ感じるでしょうし、そこに更年期障害のつらさも重なります。今のところ、私は『La Mère 母』のアンヌを専業主婦というか、家庭に主軸を置く女性だと思っていて。だから彼女は余計に『母としては引退』と言われても簡単には受け入れられない。でも、いつかは子どもが巣立っていくものだし、私は以前から子どもが生まれたときに、父も母も生まれると感じていました。子どもが巣立って父母としての役割を終えたとき、自分の生きる意味、存在意義



© samuel kirszenbaum

Wakamura Mayumi

をどこに見いだすのか。なにを自分の核にして生きて、人生の終わりを迎えるのか。当たり前ですが、人は人を愛したいし、愛されたい。でもアンヌは仕事で出かける大義名分がある夫を引き留めることはできない。だから彼女は、妄想によって自分を肯定しようとしているようにも感じます
『La Mère 母』と『Le Fils 息子』には、ゼレール自身の家族体験や感情も反映されているという。
「どちらの作品も、ゼレールさんが自分の中にある痛みを創作に昇華させた、世界の人々と生きる痛みを分かち合える作品ですし、だからこそ『Le Fils 息子』だけでなく、『La Mère 母』と同時上演することに意味を感じます。互いの作品に相乗効果が生まれるでしょうし、『Le Fils 息子』の初演をご覧になった方にも、また違う見方を見つけていただけたらと思います」

取材・文：小杉厚 (ライター/編集者)



Ladislav Chollat



「La Mère 母」
4月5日(金)～4月29日(月)祝 シアターイースト 詳細はP08へ
出演：若村麻由美 岡本圭人 伊勢佳世 岡本健一
鳥取、兵庫、富山、山口、高知、熊本、松本、豊橋公演あり。

「Le Fils 息子」
4月9日(火)～4月30日(火)祝 シアターウエスト 詳細はP08へ
出演：岡本圭人 若村麻由美 伊勢佳世 浜田信也 木山廉彬 岡本健一
鳥取、兵庫、富山、山口、高知、豊橋公演あり。

www.lefils-lamere.jp/

